

ご あ い さ つ

愛知県高等学校視聴覚教育研究協会会長
愛知県立春日井西高等学校長
大谷 宜生

会員校の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素から本研究協議会の活動に格別のご支援とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

私は、1年前の総会において前任の佐藤高弘会長の後を受け、本会の会長に就任いたしました。早いもので1年が過ぎましたが、会員校の皆様のおかげをもちまして、本会の運営を無事成し遂げることができました。大変ありがとうございました。

さて、新学習指導要領においては、情報活用能力が、言語能力、問題発見・解決能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る」ことが明記されるとともに、今後の学習活動において、積極的にICTを活用することが想定されています。

このため、文部科学省では、新学習指導要領の実施を見据え（「2018年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」を取りまとめるとともに、当該整備方針を踏まえ）「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022年度）」を策定しました。また、このために必要な経費については、2018～2022年度まで単年度1,805億円の地方財政措置を講じることとされています。

各校においては、主体的・対話的で深い学びの実現のため、授業改善に向けた取組が様々行われていることと思います。その中には、ICTの活用も一手段として、大きく注目集め、研究が進んでいるのではないのでしょうか。また、県立学校においては、9月より一人1台のタブレットが配付されました。今までは、ICTを活用したくてもその環境が整っていないためにできないと言われてきましたが、これからは、ICT環境が整ったときに、具体的にどのように活用していくかが課題となっています。

今年度も、6月にNHK杯全国放送コンテスト愛知県大会、1月には愛知県高校放送コンテストジュニア大会が行われました。人に伝えることの難しさと大切さを改めて考えさせられました。生徒たちの本番に挑む真剣なまなざしが強く印象に残っています。また、これらの活動が長きに渡り存続できているのは労を惜しまず指導されている先生方の存在があればこそということを実感することができました。

この「視聴覚のあゆみ」は、令和元年度の本研究協議会の活動をまとめたものです。県内の5地区で実施した地区研究会での成果発表などを掲載しています。視聴覚機器や放送番組をうまく取り入れながら、魅力ある授業や教育活動を実現していくために、この「視聴覚のあゆみ」がその一助となれば幸いです。

最後に、本研究活動を企画し運営された皆様、また「視聴覚のあゆみ」第56号の制作にご協力いただいた皆様をはじめ、多くの関係の皆様を重ねて感謝申し上げます、ごあいさついたします。